⑵「最終審査ノミネート校による取組み事例紹介（解説）」

解説作成　大阪商業大学　経済学部
准教授　柴田　孝

前の節での説明のとおり、2020年度は、最終審査進出校からプレゼンテーションを撮影した動画を提出していただき、それを共有して最終審査会をおこないました。

全国高等学校ビジネスアイディア甲子園の紹介にあたり、最終審査に臨む生徒の方々を支援してこられた担当の先生の視点から本コンテストについてお話しいただくことをお願いしたところ、芝商業高等学校の池田先生にお引き受けいただくことができました。

池田先生によれば、芝商業高等学校は３年次の「課題研究」の１テーマとして取り組んだとのことです。全国高等学校ビジネスアイディア甲子園が、募集するテーマを幅広く想定していることで応募しやすいこともひとつの動機とのことでした。

この「課題研究」に取り組むまでのカリキュラムとして、１年次にビジネス基礎、２年次に「ビジネスアイデア」、そして３年次が課題研究となります。２年次開講の「ビジネスアイデア」では、アイデア発想法を学び、企業からの課題にむきあって市場分析をおこない、アイデアを提案するという流れで一年かけて取り組まれています。そして３年次の「課題研究」は、生徒の自発的な取り組みによって成り立つ科目という点に特徴があります。受講する生徒が自らの興味関心や学びの必要性に応じたテーマ設定をおこない、最終的な発表・レポート作成に向けて１年かけて取り組む科目となっています。なおテーマ設定については商業科の学習内容に関連することが条件となっています。

この課題研究では、取り組みは生徒本人に委ねられ、教員は内容には立ち入らず、レポートや発表の指導、その他スケジュール管理に専念しているとのことでした。一年間のおおまかな流れとして、ゴールデンウィーク前までにテーマを設定し、１学期期末考査前にゼミ内中間発表を実施、さらに10月末の文化祭でも発表をおこないます。そして２学期期末考査前にゼミ内最終発表を行い、試験明けに発表会に臨みゼミ代表者が発表をおこないます。そこでの発表をふまえ、３年生全員は良い内容のものをシェアし、２年生は次

年度に向けて自身のテーマを考える機会となっています。最終３学期にレポート作成にとりくみ完成させることで一年間の課題研究を終える計画です。

この全国高等学校ビジネスアイディア甲子園に応募して、池田先生が参加生徒全体に感じた印象として、過去の表彰されたアイディアから学んだり、外部の団体に提出することで緊張感をもって学習に取り組むことができた、日常の生活の中でなんとなく通り過ぎていく物事や時間について、注意深く見たり考えたりするようになり、気づきが増えてきたように感じていると述べられています。最終審査に残った生徒についても、生徒による取り組みを見守ることを基本として、プレゼン資料の作成・プレゼン動画の撮影についての打合せをおこなうほか、活動をときどき見に行き気になったところを質問することや、居残りに付き合うなどが主であったとのことでした。

最後に池田先生から、本コンテストは応募しやすい条件設定となっている点がよかったとのコメントのほか、最終審査対象作品について審査員のコメントがあるとありがたいとのご意見を頂戴しております。

（注）表記ゆれ（アイディア、アイデア）は意図的なものです。